１９９２年１１月０６日

奈良県知事
　柿本善也　殿

社団法人　日本動物福祉協会
大阪支部
南大阪支部
阪神支部

動物虐待防止行政の促進についてのお願い

紅葉も日増しに色濃くなって参りました。知事様には益々ご清祥のこととお喜び申し上げます

'９２，６，４，ＴＶ放映以来、天理市における犬猫の多頭数飼育が、国内は元より諸外国の嘲笑を受けるほどに社会問題となりましたことは誠に残念なことでございます。県知事様を始め県職員の皆様のご努力が続けられていることに対しては心から感謝の意を表明いたします。１１．５．には新犬舎を訪問させて頂きましたが、動物と働かれる方々のためにも有り難いことでございます。動物福祉向上のためと申し上げると贅沢なことを要求しているかのようなお考えの方もあるようですが、国際世論では動物と人を区別（差別）しないことが定着しているように思います。我が国におきましては残念ながら無関心により事態の改善が阻まれているようです。先日、関西国際委員会委員長のＰ．カンパネラ氏と、この天理市の件について懇談いたしました。外国人からご覧になられる古都奈良の印象は伝統文化の継承維持と共に、鹿に象徴されますように動物愛護に並みならぬ努力を払い、教養水準の高い都市であると言う評価をされているようです。従って、この度、天理市で表面化されました動物虐待につきましての行政対応の遅れの理由が理解し難く、と同時に鹿についても虐待防止策が取られているのか疑問視され、ひいては奈良の評価をも損ないかねない程の重要性を秘めているように印象つけられました。日本の首都名をご存じではない外国人でさえも、フジヤマ、キョウト、ナラ、は知られています。観光古都奈良であるが故の重荷とも言えるかと存じますが日本を代表していることは確かなことでございましょう。虐待防止について行政指導が適切に行われなかったことの理由に、法が曖昧で対応が困難であったとも言えますが、対外的には恥ずかしい事態であることに変わりはございません。この事例が県民と言うよりも、国民の意識改革のために生かされるのであれば、不遇のうちに虐殺された多くの動物達の供養ともなり、国際世論をも説得できるのではないでしょうか。そのためには是非とも[redacted]氏、[redacted]氏を動物虐待で告発されますことをお願いしたいのです。これらの方が高齢者であり、悪意は少ないとの見方があることは十分に承知していますが、無意識の動物虐待としては容認限度を超えているものと考えます。